

中日友好大学生訪中団レポート集

～中国福建省福州市・廈門市～



日程：2025年4月16日～20日

【参加者】

劉 郷英	(引率者：福山市立大学副学長・教育学部教員)
大浦 充央	(教育学部 4 年生)
児玉 燎平	(教育学部 3 年生)
寒川 陽向	(教育学部 3 年生) (2 回目の参加)
朝山 温太	(都市経営学部 4 年生)
阿部 佑哉	(都市経営学部 4 年生)
高田 颯太	(都市経営学部 4 年生)
星島 もとか	(都市経営学部 4 年生)
伊藤 由衣	(都市経営学部 3 年生)
森山 陽太	(都市経営学部 2 年生) (2 回目の参加)
山岡 遼輝	(都市経営学部 2 年生) (2 回目の参加)

【訪問期間の旅程と内容】

4 月 16 日 (水)：厦門航空 MF836 便にて日本大阪関西国際空港から中国福建省福州長楽国際空港へ出国。

- ・福建省人民政府外事弁公室の幹部及び福州外語外貿学院の教員と学生たちによる熱烈な歓迎会
- ・福州市の伝統と文化的特徴を持つ典型的な里坊式歴史文化街区「三坊七巷」散策

4 月 17 日 (木)：2 つの古寺を参拝と永泰県梧桐町で文化交流体験

- ・福州市に現存する最も古いお寺「開元寺」(549 年に建立)
- ・福清市漁溪鎮にある黄檗山万福寺 (789 年に建立)
- ・永泰県梧桐外リゾートで中国茶法体験、無形文化財「虎尊拳」の演武鑑賞と体験

4 月 18 日 (金)：永泰県で 1 つの古民家見学と 4 つの文化交流体験

- ・アジア太平洋文化遺産保護賞受賞の「愛荊荘」の見学
- ・永同恵漢方薬研学基地にある無形文化財創意園で、薬草の鑑別、蚊除け香袋作り、漢方マッサージ技法等の体験
- ・永泰県農業特産品展示館で無形文化財の青梅酒等の試飲とお土産購入
- ・山葡萄蔓細工基礎技法体験
- ・高速鉄道で厦門へ移動

4 月 19 日 (土)：厦門市内にある施設見学と文化交流体験

- ・集美学村・陳嘉庚記念館見学
- ・恵和石文化園見学、無形文化財「石彫り」体験、人形劇鑑賞
- ・透明島予兩岸文化クリエイティブセンター見学、中山路歩行者天国散策

4 月 20 日 (日)：世界遺産見学と帰国

- ・午前、世界遺産「鼓浪嶼 (コロンス島)」見学。
- ・午後、厦門航空 MF839 便にて厦門空港から大阪関西国際空港へ帰国

西日本大学生訪中団での学び

教育学部 4年

大浦充央

4月16日から20日まで、中国福建省福州市および廈門市を訪れ、大きく二つの学びを得ることができました。

第一に、中国文化への理解を深めることができた点です。今回の訪中においては、開元寺や福清黄檗山万福寺、愛荊荘といった歴史的建造物を見学したほか、無形文化財である「石彫り」や研学基地でのマッサージ・手工芸品制作の体験も行いました。こうした体験を通じて、中国文化に直接触れ、理解をより一層深めることができた実感しています。

梧桐外リゾートでのお茶会では福建省で生産されているお茶の種類やその淹れ方について学びました。私は以前、習い事で日本の煎茶道を学んでいたため、日本式との違いを意識しながら参加しました。福建省では、白茶、赤茶（紅茶）、緑茶、ジャスミン茶、ウーロン茶の5種類のお茶が生産されており、それぞれ異なる香りや口当たりを楽しむことができました。また、それぞれのお茶を最も美味しく味わうための蒸らし時間やお湯の温度、煎れた回数といった細やかなこだわりにも感銘を受けました。中でも、日本ではあまり馴染みのないジャスミン茶の豊かな香りと



独特の風味が特に気に入りました。

亭主の美しい所作と、周りの風景が相まって、非常に優雅な時間を過ごすことができたように思います。本場の煎茶道に触れる貴重な経験となりました。

廈門市では、コロンス島の見学や中山路歩行者天国の散策などを行いました。コロンス島は車がほとんどないため、静かで落ち着いた雰囲気の中で、音楽隊の奏でる音楽が心地よく響き、温かみのある印象を受けました。一方、中山路歩行者天国はコロンス島とは対照的に、華やかで活気があり、食べ歩きを楽しんだ料理はどれも「好吃！」と感じる美味しさでした。

また、食事をする際には回転式のテーブルに心躍らせ、食器の使い方を学びながら、同じテーブルを囲む人々と会話を楽しむ

中で、食事を通じて親睦を深める中国の食文化を体感しました。

第二に、中国の学生との交流を通じて、多様な価値観に触れたことです。これまで異なるルーツをもつ学生と話す機会はほとんどなかったため、どのような話題を選ぶべきか、慎重になっていました。中国の学生たちは日本語学部にも所属していることもあり、日本のアニメや音楽に詳しく、日本に関する多くの質問を受けました。その関心の高さを感じ、非常に嬉しく思いました。同時に、私自身の日本の歴史や文化に関する知識の乏しさを痛感する場面も



ありました。

学生との会話の中でも、特に学生生活に関する話が印象に残っています。中国の学生は大学内にある寮で生活しており、4人で1部屋を共有していることを教えてくださいました。寮内では火気利用が禁止されているためキッチンが設置されておらず、食事は食堂でとるのが一般的とのことでした。また、ドライヤーの使用はベランダに限られており、これは規則であると同時に、ルームメイトへの配慮でもあると伺いました。これらはいずれも、私が当然と考えていた学生生活とは大きく異非常に興味深く、視野を広げる経験となりました。に、中国の学生たちは自発的に学ぼうとする姿勢がであり、将来の目標達成に向けて具体的なプロセス定している様子が見受けられました。その姿勢は私が大いに見習うべきものであると感じました。

今回の学生交流を通して、日頃から先入観を持たず公平な視点を心がけているつもりではありましたが、まだまだ知らない価値観が存在すること、そして一人ひとりを理解するためにはさらなる学びが必要であることを、改めて痛感しました。

以上の経験を通じて、異文化理解を深めるとともに、異なる背景を持つ人々の交流に必要な柔軟な視点と積極的な学びの姿勢を養うことができました。今回の訪中で得た貴重な学びを自己成長にしっかりと生かしていきます。

最後になりましたが、本プログラムにご尽力いただいたすべての関係者の皆様に心より御礼申し上げます。



なり、
さら
顕著
を設
自身

ず公

西日本大学生友好訪中団 報告レポート

教育学部3年

児玉燎平

はじめに、私は中国という国に対して、テレビや新聞などのメディアを見る限り、あまりいいイメージを持てなかったため、実際に中国に行き、様々なことを自分の目で見て感じたいという思いで今回の訪中団に参加した。

まず初めに驚いたことは、交通状態についてである。日本では車が車線変更することはあまりないし、バイクが歩道を走ることもない。また、クラクションが聞こえることもあまりない。しかし、中国ではどこへ行っても車やバイクがあふれているし、車線変更する車や歩道を走るバイクが数多く見られ、常にクラクションが鳴っていた。バイクの運転手もヘルメットをかぶっていない人が数多くいたので日本では決してみられないような光景を見ることができたので非常に興味深かった。



次に驚いたことは、やはり人口の多さである。中国は世界で二番目に人口の多い国（約14億2000万人）であり、私たちが訪れた福建省は、人口4000万人以上と日本の首都である東京（約1400万人）のおよそ3倍である。特に左の写真の中山路歩行者天国はものすごい人の数だった。

私は、今回の訪中団を通して、中国の様々な文化や歴史を学び、また、現地の方々に日本のことについても伝えることができた。自分にはない文化を学び、自分の文化を異国の人に伝えることは、自分の視野や価値観を大きく広げることに繋がっていくと感じた。

私自身、初の外国だったこともあり、多くの不安があったが、現地の学生や中国の人民政府外事弁公室の方々の支援によって、今回の旅を最初から最後まで無事に過ごし、楽しむことができた。1日目から3日目は福州市の学生と、そして4日目から5日目にかけては、アモイ市の学生と交流した。現地の学生の方々は、日本語が流暢で積極的に日本語で話しかけてくれたので感心した。対して私は、大学1年生のころに中国語を学んだが、ほとんど忘れてしまっていたので中国語で会話することはできなかった。今回の訪中団を通して、改めて母国語とは違う言語を話すことの難しさや楽しさを感じることができたし、言語を学ぶことで様々な人とコミュニケーションをとることができるということを身をもって体験することができた。



最後に、私は、今回の訪中団での体験を通して、中国の文化や歴史を知ることができ、多くのことを学ぶことができた。訪中前と後とでは、自分の中で中国に対するイメージが大きく変わった。メディアだけの情報をうのみにするのではなく、その背景にあるものや、報道されていない部分を想像し、自分の視野を狭めることなく、偏った価値観で物事を判断しないことが大切だと思った。

一期一会

教育学部3年

寒川陽向

私は今回が2度目の訪中である。前回も同様のプログラムに参加し、山西省の太原と大同に赴き、様々な文化や歴史的建造物を実際に見て体験してきた。それは、これまでの人生においても印象に残っている経験の1つであり、大学での学びに大きな影響を与えるものとなった。しかしその中で、現地の学生との交流が満足にできなかったことが心残りであった。そして2度目の訪中である今回は、福建省の福州と廈門に赴き、活動のほとんどを現地の学生と共にするようプログラムが組まれていたのである。同じテーブルで食事をしたり、バスに乗って談笑しながら移動をしたりと4泊5日という短い期間ではあったが大変懇意な関わりができたように感じる。

そのような関わりができたのは、多くの時間を共有したことだけに起因するのではなく、もう1つの大きな理由がある。それは中国で交流した福州外語外貿学院、廈門理工学院の学生との日本語での円滑なコミュニケーションが図られたことである。彼らは日本語を専攻して学んでいる学生であり、知識やスキルが身に付いていることはもちろんのこと、それを積極的に使っていこうとする姿勢に、交流する上で私たちは大きく助けられたと言えるだろう。私たち日本人の多くは英語を義務教育から長期にわたり学習しているが、英語を母語とする者とコミュニケーションを図る場面になると、途端に間違ふことや伝わらないことを恐れて喋ろうとしない傾向がある。しかし彼らは積極的に私たちに日本語で声をかけ、交流の時間を有意義なものにしてくれた。訪中を通して度々このような姿勢を目にし、見習っていかなければならないと強く感じた。

また、今回私たちが見て回った福建省の伝統文化や歴史的建造物はどれをとっても素晴らしいものであり、一概には言えないが、それぞれがその地域に根差し、現地の人々に親しまれる存在であったように感じる。中には、開元寺のように間接的にはあるが、日本の文化にも影響を与えたことが窺える歴史的建造物もあり、知的好奇心を刺激するような話も多く聞くことができた。私の地元である和歌山には空海が建てたとされる高野山金剛峰寺があるということもあり、開元寺での空海にまつわる話は大変興味深いものであった。ほかにも、建築の観点から見た建物の隠れた構造に関する話や建物の中に見られる中国ならではの風水の表れについての話など、実際に行くことでしか得られない感覚を肌で感じることもできた。

最後に、私は今回の訪中を終え、私たちの使う言語について改めて学びを深めていきたいと考えるようになった。異国の地に行き、普段使っている言語が通じないということが大変新鮮な経験であり、言語について改めて考える機会となった。私は今回現地の学生と親睦を深める中で感じたこのような感覚を大切に、今後の学びにつなげていきたいと考えている。今回の訪中が私の新たな学びの起源となったこと、また、岡山大学をはじめ多くの学生と学びを共有できたことは私にとってまさに欣快の至りである。



西日本大学生訪中団への参加を終えて

都市経営学部 4年

朝山温太

今回の渡航で私は中国の都市のデザインについて学ぶこと、中国から見た日本を知ることが目的として臨んだ。私が大学で都市のデザインについて学んでいること、日本の様々な文化・考え方のルーツは中国にあること、現代の日本の様々な文化が中国でも人気であることからこれらを目的とした。

まず、都市についてであるが、日本よりも革新的であるという印象を受けた。歩行者への配慮や公共交通機関の利用促進を目的に、路線バスやバイクが車道ではなく専用の道路を走行していたり、自然と街が調和することを目的に、多くの建物が曲線部を含んでいたからである。しかし、日本の都市部との最も大きな違いであると感じた点は都市部の緑の量である。実際に、福建省の市街地の緑被率は約40%であり日本の市街地の緑被率の平均である24%を大きく上回っている。一概に緑が多いから良いというわけではないが、日本と同様、あるいはそれ以上の交通量があるにもかかわらず心地よい空気が漂っていると感じたことには緑の量が大きく関係しているであろう。気候や環境が異なるため、日本で再現することは簡単ではないがグレー（人工物）とグリーン（自然物）が共存する社会というのは、日本の市街地でも目指すべき姿であると感じた。

次に、中国から見た日本についてであるが、多くの日本の芸能文化が中国でも人気であることを現地で改めて知ることが出来た。世界で日本のアニメや漫画が人気であることは知っていたが、日本語の歌も人気であるというのは大きな驚きであった。また、現在開催されており、日本で度々話題を呼んでいる大阪万博について、中国でも大きな話題であるということにも驚いた。黄檗山万福寺や空海など、日本人にとっても馴染みがある名前にたくさん触れたように、古くから両国は深い関係にあったが、その種類や手段を変えて現代でも深く繋がれていることを一人の日本人として誇りに思っている。

最後に、改めてこのような機会を頂けたことに非常に感謝している。現地の学生、教員の方々、そして中国大阪総領事館の尽力に感謝したい。様々な「初めて」に出会い、温かい人々に出会い、そして何よりこの渡航の目的としていた多くの学びに触れることが出来た。帰国後、「百見は一行にしかず」とはまさにこのことであろうと感じた。ぜひ、多くの学生に参加してほしい。そして私も将来、日中の架け橋の一員となれるように尽力したいと思う。

ほなまた(^_^)/~



西日本大学生訪中団に参加して

都市経営学部 4年

阿部佑哉

2025年4月16日から20日までの間、私は西日本友好訪中団の一員として福建省を訪問し、福州・廈門を中心に様々な歴史・文化・教育・産業施設を見学する機会をいただきました。日中の歴史的・文化的なつながりの深さを再認識するとともに、現在の中国社会の発展、地域の活力を多面的に感じることができ、大変有意義な経験となりました。

訪中を通じて、日中の歴史的なつながりの深さを再認識しました。特に、黄檗山万福寺では、宗教の持つ文化的・精神的な力と、日本の仏教に大きな影響を与えた黄檗宗の起源を肌で感じることができました。黄檗宗は江戸時代に日本へ伝わり、建築や思想面で大きな影響を及ぼしています。その発祥の地を直接訪れたことで、日中の文化交流の連続性を実感しました。



観光においても、恵和石文化園や鼓浪嶼のように地域の固有資源を生かしながら新たな価値を創出する事例を多数見ることができました。透明島文化クリエイティブセンターでは、若手クリエイターの活動や民間発信型の文化交流が進められており、“地域と文化”が結びつく新たな形を実感しました。

陳嘉庚記念館や集美学村では、教育を通じて国家や地域に貢献しようとした陳嘉庚の思想に触れました。私財を投じて教育機関を設立し、海外の華僑と本国をつなぐ存在であった彼の姿勢から、民間の力が国家の未来を支える原動力になり得ることを学びました。



私は将来、都市計画や地域交通インフラに関わる仕事に就きたいと考えています。その中で、今回福建省で見た“文化や伝統を活かしつつ現代の課題に対応する”という姿勢は私にとって大きな刺激となり、都市計画においても大いに参考になると思いました。例えば、鼓浪嶼のように、歴史的環境を保全しながらも生活や観光と両立させる手法や、地方資源を活かした経済循環のつくり方は、日本の地方創生にも応用可能だと感じました。

最後に、このような貴重な機会を設けてくださった主催者・関係者の皆様、温かく迎えてくださった現地の方々、そして共に学び、交流を深めた訪中団の皆様にご心より御礼申し上げます。多くの学びと出会いに恵まれた今回の訪中は、私にとってかけがえのない経験となりました。今回の訪問で得た知識や出会いを糧に、今後の学びと成長に活かしてまいります。誠にありがとうございました。



中国研修レポート

都市経営学部 4年

高田颯太

私は中国に行く前、正直楽しみよりも不安な気持ちの方が大きかった。しかし、実際に初めて中国を訪れて、中国へのイメージが良い方向に変わった。今回、私たちが訪れた福州市は日本より気温が高く、4月でも半袖で十分だった。空港に到着した際、福州外語外貿学院の学生たちが迎えてくれ、中国に着いて早々、暖かな雰囲気を感じることができた。中国で印象的だったのが食文化だ。まず、食卓が日本のものとは違い、円卓状になっており欲しい料理をとるにはテーブルごと回す形式だった。本場の中華料理は、日本で味わうものとは一味違い、香辛料を使ったスパイシーな料理が特に美味しかった。ただ、一卓に運ばれてくる料理の数と量が凄まじく、8、9人で囲んで食べても全部食べきれない程だった。食卓にアヒルが丸ごと入ったスープが出てくることがあり、日本では食べないため非常に驚いた。また、今回の研修では中国の歴史、文化に触れられる貴重な機会となりました。福州の三坊七巷をはじめ、開元寺、厦門の集美学村、恵和石文化園など様々な場所に訪れた。それぞれ訪れた場所ではガイドさんの日本語での丁寧な説明がつき、中国語のわからない私でも歴史を学ぶことができた。驚いたのは、中国の学生も日本語が話せることだった。日本語学科であるとはいえ、複雑な日本語を使って日本人の私たちとコミュニケーションが取れていることに感動した。日本に訪問してきた外国からの学生の気持ちが少し分かったような気がした。

今回の旅を通じて、中国に対する印象が大きく変わった。人々の親しみやすさ、美しい景観、豊かな文化すべてが心に残っている。これからももっと中国のことを知りたい、また訪れたいと心から思う。



百聞は一見に如かず、百見は一行に如かず

都市経営学部 4年

星島もとか

紅いブーゲンビリアが映える山海に囲まれた福建省で4泊5日の訪中の旅をした。

福州では明清時代の伝統的な街並みが残る三坊七巷を散策し、開元寺や福清黄檗山萬福寺を参拝した。萬福寺では住職の方から日中両国が仏教を通じて古代から現在まで特殊な関係が築かれてきたことや掲げてあった「幸福其实很简单 一份来自万福的礼物足矣」の言葉に大変感銘を受けた。

廈門では愛荊莊や集美学村、恵和石文化園、コロンス島などを見学した。教育の重要性と華僑の歴史について学び、また伝統文化を体験することができた。「海上の花園」という美名を持つコロンス島では非常に美しく、豊かな自然と異文化風の建築物、そして音による芸術を楽しむことができた。

以前にも私は訪中の経験があり、その時には北京、上海、済南等の北方しか訪れたことがなく、南方に行くのは初めてであったが、中国は地域によって気候風土や言語、料理、文化習慣等が大きく異なることが理解できた。福建省は中国東南部の亜熱帯に位置しており、年中を通して温暖な気候で4月は旅行のベストシーズンということもあり、大変過ごしやすかった。豊かな自然と特有の開放的な雰囲気を感じられた。福建料理はどれも美味しく、特に海鮮料理が大変美味しかった。新鮮な海鮮と比較的油の少ないあっさりとした味わいで、日本人の口に合うものが多かったと思う。また、中国語を使って買い物をすることができ、自分の成長を感じられる旅でもあった。それと同時に私の拙い中国語を聞いて、一生懸命理解しようとしてくれたり「中国語が話せて凄い!」と褒めてくれたり、現地の人びとの優しさにも触れることができた。

福州外語外贸学院と廈門理工学院の外国語学部日本語学科に所属する学生たちと行動を共にし、相互理解と友好親善を深めることができた。マンガ・アニメ、J-pop等の日本文化から互いの日常生活や趣味、好きなもの等の些細なことについても話をした。対面でのコミュニケーションは、教科書でもインターネットでも得られないような小さな同異点をたくさん知ることができた。このような日中両国の青年交流は現在だけではなく、これからの日中関係の進展に重要な役割を果たすものであると信じている。

短い期間であったが、実際に中国へ行き様々な経験ができたことで充実した時間を過ごすことができた。私が思う中国の魅力は、人びとがとても情熱で生き活きとしていることである。今回の訪中でさらに中国という国が好きになったし、忘れられない大切な思い出になった。中国に行くことがあれば、また福建省を訪れたいと思う。

このような貴重な機会を設けてくださった関係者の皆様および私たち西日本大学生訪中国を温かく歓迎してくださった福建省の皆様へ深く感謝申し上げます。

百闻不如一见，百见不如一去

都市経営学部 4年

星島元花

红色的九重葛和绿色的山海很美丽的福建省，咱们，西日本大学生访华团去了旅游。

在福州，我们逛了保存明清时代的三坊七巷，去了开元寺，万福寺参拜。听万福寺的住持说日中两国从古代到现在在佛教方面起来建立特殊的关系。另外，受到了挂着「幸福其实很简单 一份来自万福的礼物足矣」表达的意思的感动。

在厦门，我们参观了爱荆莊，集美学村、惠和石文化园、鼓浪屿島等等。我明白了重男轻女的社会中，女性教育对女性地位提高了对有益，华侨的历史，还有精彩的中国传统艺术。

其实我以前去过中国，那个时候只去了北京，上海和济南等中国的北方，所以没去过南方。但是通过这次访华，我能了解到中国根据地域气候，语言，饭菜，文化和习惯也不一样。福建省在中国东南部分，气候很温暖，所以太好过了。福建饭菜都很好吃，特别是海鲜最好吃。有那些海鲜和风味儿很清淡，适合日本人的口味儿。还是我学了汉语两年半了，我自己能买东西了。我的发音不好，但是很高兴人们都用笑脸听了我的汉语。

福州外语外贸学院和厦门理工学院两个学院的外语系日语专业大学生们跟我们一起去了旅行，我们很多加深了相互了解和亲善友好。我们聊天儿了动画，J-pop 等日本文化，日常生活，兴趣爱好等各种各样的事情。我期望靠这样的日中青年文化交流日中关系越来越好了。

这次访华时间很短，但是我觉得中国人很热情，很活泼，所以我发现喜欢中国。如果我有机会去中国的话，我想再去一次福州，厦门。

我非常感谢这么难得的机会。谢谢。



長い歴史を持つ厳かな雰囲気の開元寺

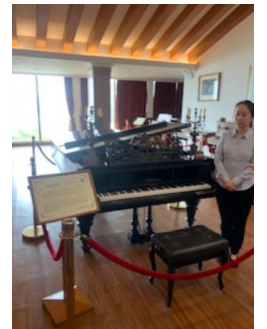
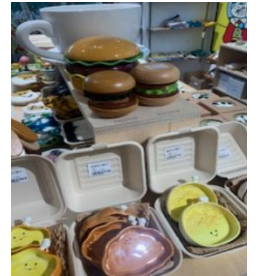
福清黄檗山萬福寺で発見した「幸福其实很简单 一份来自万福的礼物足矣」の文字



愛荊莊



賑わう中山路「美食城」



「海上の花園」コロンス島の風景と繊細な装飾が施されたピアノ

🌸初めて行った中国での思い出🌸

都市経営学部 4年

伊藤由衣

1. 三坊七巷

○南後街

…三坊七巷のメインストリートであり、私たちは夜に街を散策した。

かわいいお土産がたくさん売っているお店や、日本にもたくさんあるマクドナルドが中国仕様になっていて日本とはまた違ったお店の雰囲気だった。それに加えて、ハーゲンダッツ専門店があり、ハーゲンダッツを買って、初めて来た街を歩きながら食べたのもいい思い出になった。その他にも、タピオカや紅茶が売ってあるおしゃれなお店があったが、今回は時間の都合上いけなかったので、次回来るときは、中国のタピオカや紅茶を飲もう！と思った。



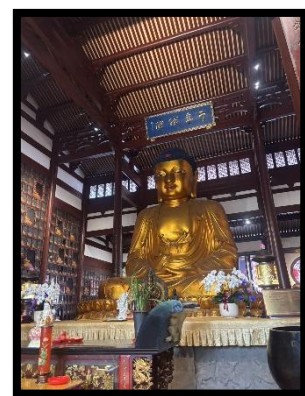
♥️ハートの木♥️

…人の手を加えることなく、自然と大きくハート形に成長したといわれる、福州を代表するガジュマルの木が街の中心にある。実際に見てみると、とても大きくてしっかりハート形になっており、こんなにも大きいハート形のかわいい木をみたのは初めてで、とても印象に残ったし、幸せな気分になった(^▽^)/



2. 開元寺

…福建省泉州市にある有名な仏教寺院である。「開元寺」という名前のお寺は、日本にもいくつかあるが、直接的な関わりはないとされる。だが、直接日本に影響を与えたわけではないが、日本の僧たちがこの開元寺を訪れたりする「学びの場」であったとされる。また、開元年間に建てられたとされ、「開元寺」という名前が付けられ、建物の特徴としては、とても広く、伝統的な中国の仏教建築が多く残っていた。また、とても印象的なのが、仏像全体が金箔に覆われた「釈迦牟尼仏(しゃかむにぶつ)」だ。中に入った瞬間、大きくて金色に輝いており、パッと目に引き寄せられた。また、この仏像の周りに、小さな像がたくさんあり、多種多様な表情やポーズをされていて、どれも趣深く、それぞれの像に意味が込められているのかなと思った。



💡 豆知識 💡

…書道を誰よりも早く学んだとされる、とても有名な歴史上の人物「空海」も開元寺と深く関係している！それに加えて、日本で非常に優れた書家であり、「三筆」の一人とされるほど、字を書くのが上手だったそうだ。



<番外編> ~かわいい像達~

…開元寺には、あらゆるところにたくさんのかわいい小さな像たちがいて、それぞれにポーズをとっていて、自由気ままに過ごしているように感じ、おもしろいなと思った。



3. 中国での手作り体験

○ぶどうのつる編み

…福建省の昔から使われる模様であり、バッグや壁画などその他にもさまざまな商品に用いられており、今回は、かわいいストライプのようなものを作った。
水に着けると、よりやりやすくなったり、全体的に細かな作業が多くて、途中からどこをやっていたのか分からなくなったりしたが、中国の上手に作れるベテランの方に手伝っていただきながら、一生懸命作り、完成させることができて良かったし、楽しかった。



○漢方入り叩き棒



…漢方薬の材料である薬草などを布の袋に詰め、そのあとに紐のようなもので巻いて作る肩叩き棒だ。これは、作業自体はとてもシンプルなものではあるが、紐を巻いていくとき

にやり方を少し間違えたり、紐をしっかり固定してなるべく隙間を作らず、平行に巻いていかないと、紐が足りないという事件につながり、私自身も1回目その状況になり、作り直しになった…。思っていたよりも腕を使うので、少し腕が痛くなりそうだったが、2回目はしっかり完成させることが出来てよかった。日本でも、しっかり肩たたきに使ったり、蚊が寄ってきたときの対処

法としてしっかり使いこなしたい。

○石堀り

…自分の干支のサルの形が入った、「福」という文字の中を掘っていくという作業をした。

少し重みのある彫刻で、細かな文字の中身を丁寧に程よい力で叩いて掘っていたら、掘った部分の文字が白く色付いていくように見えてくる。この作業は、細かく素早く手を動かしながら、なるべくはみ出さないように掘っていくという、少し高度な方法であり、精神的にも肉体的にも疲れやすかった。だが、掘り終わってから、色を付けてもらうと、とてもきれいな作品となっていたので、うれしかったし、家でも飾りたいと思った。



○乾燥植物の袋詰め



…たくさんの乾燥植物がお店の中に並べられており、器いっぱい自分の好きな匂いのする植物を選び、細かくすり下ろした。それを店内のお気に入りの袋を選び、その中に、詰め込んでもらった。小さいコンパクトな大きさで、持ち運びもできるし、とてもいい匂いがしてお気に入りだ。

《中国に行ってみての感想》

初めて、中国に行ってみて、イメージとは違った中国の雰囲気や文化・伝統を肌で感じることができ、とても貴重な良い経験になった。

また、自分自身が初海外だったということもあり、日本とは違った他の国の歴史や、街並みをこのイベントを通して、感じ取ることができ、初めての体験をたくさんすることができ、とても楽しかった。現地の中国の学生さんたちとの交流を機に新たな学びへとつながり、とても良い時間になった。



ひとつ 「人繋」

都市経営学部 2年

森山陽太

福建省への訪問について思い返していると、ふとある言葉がよぎった。「人繋（ひとつ）」。これは、僕が中学生のころ生徒会長として生徒会に所属していた際のスローガンである。もちろん僕たちが考えてつくった造語だ。今回の旅で僕は国境を越えても人と人とは繋がって人繋になることができること、そしてこの経験は自分にとってかけがえないものになったと強く感じた。

僕たちにとって中国という国はいちばん身近な国のひとつである。そんな中国に初めて訪れてから7年、ご縁があり計3回の訪中を経験した。どの訪中も濃い思い出だが今回は格別だった。福建省に到着した時の第一印象はとにかく「蒸し暑い」ということだった。そして空港では現地の大学の日本語学部の生徒さんたちがあたたかく出迎えてくれた。はじめはなかなか打ち解けることができなかったが、ともに時間を過ごしていく中でお互いの好きなものや流行っていることなど他愛のない話で盛り上がった。そのような中でたくさんの場所を訪問した。多くの歴史的建造物や最終日にコロンス島へ行ったことは歴史、世界遺産好きの僕にとってたまらなくうれしいことであった。しかしそれ以上に、みんなでバスでカラオケ大会をしたこと、リゾート地を歩きながらお互いに中国語や日本の方言を教え合ったこと、たくさんの写真を一緒に撮ったこと、おしゃべりしながらご飯をたべたこと、これらすべてが僕の中で最高の思い出となった。

生まれ育った国、今まで学んできたこと、価値観などはたしかに異なっているかもしれない。しかし、たとえ国が違っていても、考え方が違っていても僕たちは繋がることのできるということを身をもって体感した。そしてこれこそが旅の大きな醍醐味であるのだと感じた。今後も何事にもチャレンジすることを恐れず、人と人との繋がりを大切にしていこうと思う。

最後になりましたが今回このような素晴らしい旅に参加することができましたことを心より感謝いたします。関わってくださったすべての方々、本当にありがとうございました。そして締めくくりとして、唯一5日間の旅をともにした中国の学生の言葉を借りて終わりにしようと思う。また逢う日まで。ほなまた(^)/



西日本大学生訪中団感想文

都市経営学部 2年

山岡遼輝

私は今回で二回目の訪中団への参加となりましたが、前回訪れた際に抱いた中国への印象とは、少し異なる印象を持ちました。前回の訪問では、学生同士の交流の時間があまり設けられておらず、中国の学生たちと深い関係を築く機会は限られていました。そのため、どこか距離感を感じながらの滞在となってしまったのが正直なところでした。しかし、今回の訪問では、中国の学生たちと見学中も常に行動を共にすることができたため、自然な形でお互いをより深く理解し合い、親しい関係を築くことができました。

特に印象的だったのは、中国の学生たちがとても優しく、温かい心を持って接してくれたことです。常に気遣いの言葉をかけてくれたり、困っているとすぐに助けてくれたりと、その思いやりの深さに何度も感動しました。見学先では、ただ説明を聞くだけでなく、それぞれの感想を語り合いながら、互いの考え方や感じ方を共有することができました。文化や歴史に対する捉え方の違いに驚いたり、共感したりする瞬間が何度もあり、そうした一つ一つの会話が絆を深めていくきっかけとなりました。

また、見学の合間には、日本と中国の違いについて話し合ったり、それぞれの国で今、人気のある音楽やアニメ、ファッション、食べ物の話題など、さまざまなことについて楽しく語り合いました。共通の趣味を見つけて一緒に盛り上がったり、互いに教え合ったりする時間は本当にかげがえのないものでした。言葉や文化の違いを超えて、心と心で通じ合える瞬間があるのだと、強く実感することができました。

今回の訪中団の経験は、私にとって一生忘れることのできない、かけがえのない素晴らしい思い出となりました。これからもこの出会いを大切に、さらに国際的な交流を深めていきたいという気持ちが一層強まりました。この貴重な経験を通じて得た学びと感動を胸に、今後もさまざまな人々との交流に積極的に取り組んでいきたいと思います。

